

(様式6-1)

## 実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	指宿スカイラインの魅力向上に向けた基礎研究
助成事業者	一般財団法人鹿児島県環境技術協会
代表者	理事長 宮廻 甫允 (申請者 清水建司)

### (目的)

本研究では、指宿スカイラインを事例として、来訪者等の流動性を高める方策を検討する。周辺観光地等との連携による利用促進等により、来訪者等の流動性を高める方策や指宿スカイラインの新たな観光資源の開発などで道路の魅力を高めることによる利用促進を進める方策について検討する。

### (概要)

平成30年度は、指宿スカイラインの魅力創出のため現況の調査を中心とした概要調査を行った。その結果、特にⅡ期区間の利用者を増加させることで、総体的に道路の利用率向上につながる事がわかった。その際に利用者を増加させるためのポイントとして、沿道の魅力、展望施設の魅力、周辺地域とのつながりを活かした魅力の3つの視点に整理した。次年度、それらを深めるための詳細調査を実施して、総体的な魅力向上により利用者の流動性を高め、利用率増加と地域の経済発展の貢献する道路づくりのための研究を完成させる。

### <背景>

指宿スカイラインの総体的な利用者は、平成10年頃以降は漸増状態にあるが、Ⅱ期区間についてみると、供用開始時からⅢ期区間供用開始まで年間14万台程度の通行量であったが、昭和63年にⅢ期区間の供用開始により約3倍に増加した。しかし平成3年頃をピークに下落傾向にあり、近年ではⅢ期区間供用開始前の通行量の水準にまで落ち込んでいる。Ⅱ期区間の利用量を増やすことは、今後の指宿スカイラインの総体的なサービスを維持していく上において重要な課題となっている。

### <沿道の魅力を増す>

今年度の調査から、指宿スカイラインの沿道についての現在ある「魅力資源」を整理し、それを伸ばすような管理方法を確立することで、四季を楽しめる森の区間、竹香る涼やかな区間、眺望区間、鹿児島島の森を感じられる区間、空見区間など、区間毎の個性を演出する可能性が示唆された。

「走っていて楽しい」「鹿児島島の森林(もり)を楽しめる」など、道路を走ることそのものが目的になるように仕掛けをおこなうために、次年度、区間個性の設定と、それに向けた管理運用方法の整理を行う。あわせて管理の手間や費用を低減さ

せる手法についての検討を行う。

#### ＜展望施設の魅力を増す＞

今年度の調査から、展望施設については庭園的に管理された環境空間と位置づけ、「魅力資源」を創出して、展望所に立ち寄る「意義づけ」を行う中で、来訪者が楽しめる仕掛けを行っていくことが必要と考えられた。

展望所カード（ダムカードのようなもの）の発行、展望所クイズラリー、展望所でマークを探せ、季節毎に色が変わる展望所など、眺望+αの楽しみ方が提案できるような仕掛けを行うために、次年度、それぞれの展望所の個性を詳細に調査するとともに、現在の個性に加える・創出する個性の設定と、それに向けた管理運用方法の整理を行う。

#### ＜周辺地域とのつながりを活かした魅力を増す＞

今年度周辺の観光資源とのつながりについて整理を行い、多くの資源が存在することが確認できたものの、それらとの結びつきの弱さが見受けられた。そのため、南薩地域を中心に、様々な観光施設や自然体験場所などをつなぎ、指宿スカイラインを利用して南薩地域への観光客の流入を促進する施策が必要である。次年度、ポイントラリーや割引キャンペーン、市町村と連携したタイアップキャンペーンなどについて調査・検討を行う。